

幼小一体的な教育課程「生活ひろば」の開発

令和7年度 第3年次

白梅学園大学附属白梅幼稚園

小平市立小平第一小学校

1 研究開発課題

幼小移行期において生活の発見と交流を通して問題解決を図り、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力を育み、「探究」を自律的に深化させる、幼小一体的な教育課程の研究開発

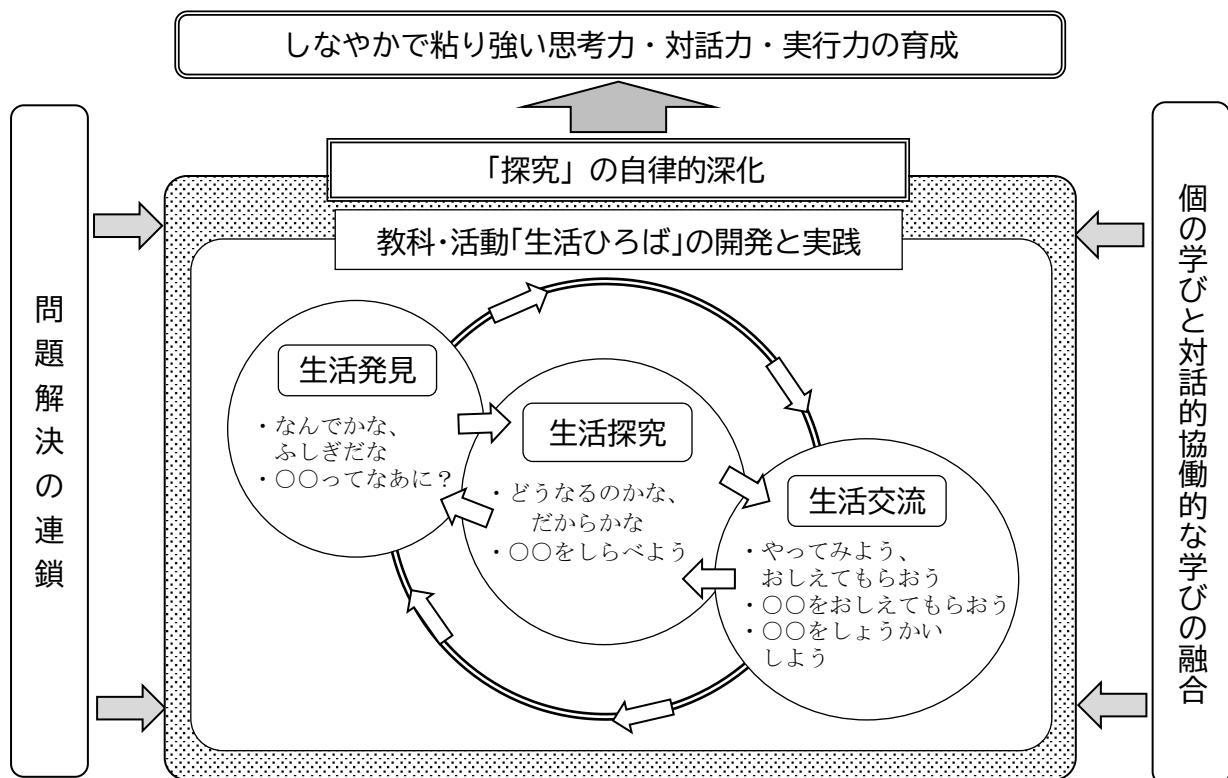


図1 研究の全体図

2 幼児教育と小学校教育の連携・接続に関する課題

生活科の創設から30年以上経ち、幼小連携の取組は国公立の園・学校を中心に定着しつつある。現行の幼稚園教育要領や小学校学習指導要領において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、幼小の教員で共有し、幼小移行期の教育を充実させることが求められている。幼小間においてカリキュラム連携を具体化、実質化させるために、5歳児から小学1年生までの2年間の架け橋期における『幼保小の架け橋プログラム』が示され、その手引き等が提供されている。一方で、園児による単発的な小学校訪問など形式的な連携にとどまり、本格的な普及が進まない現状がある。

その背景には、全国的に小学校は公立が多数を占め、校区の意識が高いのに対し、幼稚園等は私立の園が多く、校区どころか自治体を超えて園児が通園することがあるだろう。卒園児の進学先はいくつもの小学校に分散する。幼小連携の発達の教育的必要性は理解されていても方途が見つからず、幼小双方ともどの園や学校と連携を行うのか選択し難い。その影響もあり、単発的な交流にとどめたり、園と小学校が別々にアプローチ・カリキュラムやスタート・カリキュラムを策定したままとなったりして、初等教育前半の本格的なカリキュラム連携には至りにくい。

幼小連携の課題としては、幼小間の交流や円滑な接続は目的ではなく手段とその成果であることを改めて認識し、共通の理念と枠組みをもつ幼小一体的な教育課程の開発と実践を通して、学びの発達の移行が進むことを示す必要があるだろう。

3 研究の目的と仮説

本研究の目的は、私立の幼稚園と公立の小学校が、地域の人的物的環境を活かして連携し、幼稚園5歳児から小学校2年生の幼小移行期における「探究」の自律的深化に向けて、生活の創造と交流を通して問題解決を図り、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力を育む、幼小一体的な教育課程を開発することである。具体的には以下の4点の目的から成る。（図1参照）

- ①幼稚園5歳児から小学校2年生の3年間における、「探究」を自律的に深化させる、生活経験に基づく幼小一体的なカリキュラムを提案する。「探究」については、子どもの素朴な疑問が「問い」や取組のめあてとなる道筋に向き合い、問題解決を連鎖させ、その過程で個別の学びと対話的協働的な学びを融合させ、子ども自身が学びを自律的に深める活動として捉える。
- ②幼小一体的なカリキュラムとして「生活ひろば」を小学校の教科、幼稚園の活動として導入し、実践と評価を通して、教育上の意義と有効性を明らかにする。
- ③「生活ひろば」において、個の学びと、同学年や異学年の仲間や地域の人々などを交えた対話的協働的な学びとの融合を図る教育方法を提案する。
- ④以上の①～③を通して、子ども自身によって学びがマネジメントされ、探究が自律的に深化し、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力が育まれることを検討する。

以上の目的に基づき、本研究の仮説については、以下の4点を設定した。

（1）仮説1 「生活ひろば」教科・活動の導入

幼稚園・小学校の一体的な教育課程として、〈生活発見〉〈生活探究〉〈生活交流〉から構成される教科・活動「生活ひろば」を導入し実践することによって、子ども自身の生活に基づく問題解決を連鎖させ、探究を深化させることができる。

（2）仮説2 地域の環境や資源を活用した教育方法の工夫

「生活ひろば」において、幼小間で共有可能な、地域の環境や資源を幼小相互に活用することによって、探究の深まりをらせん的に導くことができる。

(3) 仮説3 個の学びと対話的協働的な学びとの融合

「生活ひろば」における交流や協働、さまざまな表現と対話を通して、個の学びと、同学年や異学年の仲間を交えた対話的協働的な学びを融合させ、探究を深化させることができる。

(4) 仮説4 「探究」の自律的深化による育ち

「探究」を自律的に深化させることにより、事物や事象への関わり方に発達がみられ、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力が育まれる。

4 教育課程の特例

小学校1～2年生において、週5時間の「生活ひろば」を教科として新設した。

従来の教育課程のうち、以下の時数をこの新教科「生活ひろば」に充当させた。

①生活科(週3時間)の全時数：年間第1学年102時間、第2学年105時間

②図工科(週2時間)のうち週1時間：年間第1学年34時間、第2学年35時間

③国語科(週9時間)のうち一部：年間第1学年30時間、第2学年30時間

④音楽科(週2時間)のうち一部：年間第1学年4時間、第2学年5時間

以上より、新教科「生活ひろば」は週5時間、年間第1学年170時間、第2学年175時間とした。

5 教育課程の編成

教育課程の編成にあたり「要素」「分野」「期」を設定し、幼小間の教育課程の連続性を図った。

(1) 要素(コンセプト)

要素として、幼稚園と小学校に共通して〈生活発見〉〈生活探究〉〈生活交流〉を設定した。

①生活発見

自らの生活を見つめ直し、気付いたことや不思議さを感じたことから、素朴な疑問を出し合い、「知りたい」「やってみたい」問題を発見する。言い換えれば、問題を発見することを通して、自らのふだんの生活は自明のことではなく、園・学校や地域、家庭の仕組みのなかで導かれているのだと、「生活」を発見することでもある。5歳児においては「なんでかな、ふしぎだな」、1年生と2年生においては「○○ってなあに？」を導入句として、事物や事象への興味や関心、理解を深めていく。

②生活探究

〈生活発見〉で見つけた問題について、解決を試みることを重ね、生活における事物や事象の仕組みや構造について探究を深めていく。〈生活探究〉は「生活ひろば」において、問題解決過程の中心に位置づく。5歳児においては「どうなるのかな、だからかな」、1年生と2年生においては「○○をしらべよう」を導入句として問題解決を促し、事物や事象の仕組みや構造をより深く探究することを推進する。

③生活交流

生活の異なる場を交流させ、生活にはさまざまな局面があることや多様な価値観に基づいていることを理解し、刺激を受けたことを自らの生活に取り入れたり、誰かの生活に役立てようとしたりする。〈生活交流〉には、「自らの異なる生活の場を交流させること」と、「他者の生活と自分の

生活を交流させること」の二つの側面がある。5歳児においては「やってみよう、おしえてもらおう」、1年生においては「〇〇をおしえてもらおう」、2年生においては「〇〇をしょうかいしよう」を導入句として、交流を促し、探究の成果を共有することを推進する。

以上の〈生活発見〉〈生活探究〉〈生活交流〉は、〈生活探究〉を中心にしながら相互に関連付けることによって、自らの生活の創造に向かう。生活のなかから生じた疑問は、生活の環境や諸資源などを活用しながら問題解決や探究を進め、その成果を交流させて、改めて自らや社会の生活を見つめ直す。実践においては、この循環をマネジメントすることを心がける必要があるだろう。

（２）分野

科学的認識と社会的認識の均衡を考慮し、活動分野を設定した。

①栽培

野菜や草花の栽培を通して、その特徴や生育の場所や条件、植物の変化や生長の様子について理解し、探究を深める学習分野である。具体的には、栽培のほか、収穫やその後の取扱い、作物の加工、調理等を含む。幼稚園では、4歳児が大豆の栽培と収穫を、5歳児が大豆を用いた味噌づくりを行うことを含む。小学校では、1年生が小麦の種まきと栽培を、2年生が小麦の栽培と収穫、加工、調理等を行うことを含む。

②飼育

季節の生き物の観察や採集、飼育を通して、その特徴、変化や成長の様子、生き物の生息状況、飼育の条件などについて理解し、探究を深める学習分野である。幼児教育において飼育体験は重要であるが、生き物の採集に偶然性が高く、また、生き物によっては教師の介入が必要となるため、飼育に関する探究を教育課程として計画することが難しく、「飼育」を「生活ひろば」の活動分野には含めない。小学校では、1年生、2年生とも「飼育」を活動分野とする。

③制作

自然や身近にあるものを利用して、特徴を捉えて工夫してつくって遊び、仕組みや機能を理解し、探究を深める学習分野である。幼稚園、小学校に共通して設定する。

④社会創造(幼稚園)／創造(小学校)

園内・校内の同学年や異学年の友達と交流する場を創り出したり、家庭や地域の人や生活に触れて生活世界を園や学校で再現したりして、人と関わることのよさや社会生活について探究を深める学習分野である。分野名については、幼稚園では「社会創造」とし、小学校では「創造」とする。

（３）期

活動の長期的連続性と、季節の変化を考慮し、期については、幼稚園、小学校とも共通に、「春」「夏」「秋」「冬」とした。

（４）テーマ

本教育課程では、学習活動のまとまりについて「単元」に代わり、「テーマ」を用いることとした。このカリキュラムでは、5歳児から2年生まで、学年を超えて内容の連続性と相互の関連性をもたせていること、それは子どもにとっては過去の経験と接合させながら学びを進め、探究に至ること、学年に限っても学期を超えて長期的な活動となること、生活の問いに基づきゆるやかな開始と開放的な終結となること、などから、生活経験に基づく長期に渡る教育課程として、子どもが活動や学びの連続性を意識できるように「テーマ」を採用した。いわば、長期のテーマ学習として、教育課程を構想した。

表 1 幼小一体的な教育課程「生活ひろば」の構成

	生活発見	生活探究	生活交流
4歳児からの接続	生活や遊びにおいて、興味や関心のあることと向き合い、時間をかけて活動を展開する。自らの生活に栽培や飼育、簡単な当番活動を位置づけ、同年齢や異年齢の仲間に自分の考えを話し、仲間の意見と交流させながら、試行錯誤と問題解決を重ねていく。		
5歳児	- 生活や遊びにおいて、気付いたことや不思議に感じたこと、関心のあることをもちより、疑問を出しあう。 なんでかな、ふしぎだな *色はどうしてかわるのかな *食べ物はどうしておいしくなるのかな *どんなお店があるのかな、こんなお店があったらいいな	- 生活や遊びにおいて、仲間とめあてを共有し、問題やうまくいかないことについて考えを交流させ、試行錯誤しながら、新たな気づきを得て、変化を共有し、充実感を味わう。 どうなるのかな、だからかな *布を染めてみよう *大豆を畑で育てよう *どうやったら本物らしくできるかな	- 家庭生活との関連を基に、生活上の様々な工夫に触れ、関心をもつ。 - 地域の文化や自然に出あい、興味や関心をもって関わり、親しむ。 - 異年齢や小学生、地域の人と交流し、刺激を受けたことを自らの生活や遊びに取り入れる。 やってみよう、 おしえてもらおう *染め物サークルに参加するおうちの人に聞いてみよう *大豆を収穫して味噌や醤油をつくってみよう *お店をひらいてお客さんをもてなそう
1年生	- 主に学校や通学路の不思議から、問題を発見する活動につなげる。 〇〇ってなあに？ *「季節」ってなあに？ *「花のレストラン」ってなあに？ *「腐葉土」ってなあに？ *「小平糰うどん」ってなあに？	- 調査活動からできそうなことを取り入れ、楽しみながらトライ＆チャレンジする活動を行う。 〇〇をしらべよう *生き物を調べよう *植物を調べよう *動くしくみを調べよう *音のしくみを調べよう	- 他者（幼稚園児や地域の人など）と交流して、探究によって得られた成果を表現し提供する活動を行う。 〇〇をおしえてもらおう *ヒミツを紹介しよう *郵便局を紹介しよう *昔遊びを紹介しよう
2年生	- 主に通学路や遊び場の不思議から、問題を発見する活動につなげる。 〇〇ってなあに？ *「季節」ってなあに？ *「花のレストラン」ってなあに？ *「腐葉土」ってなあに？ *「小平糰うどん」ってなあに？	- 調査活動から、自分や誰かにとって役立つようなことを取り入れ、楽しみながらトライ＆チャレンジする活動を行う。 〇〇をしらべよう *生き物を調べよう *植物を調べよう *動くしくみを調べよう *音のしくみを調べよう	〈生活探究〉によって得られた成果を、他者（幼稚園児や地域の人など）に表現し提供する活動を行うとともに、交流を通して〈生活探究〉を深める。 〇〇をしょうかいしよう *ヒミツを紹介しよう *郵便局を紹介しよう *昔遊びを紹介しよう
3年生への接続	「なにこれ」「ふしぎ」の感覚を大切にし、問題発見力を育む。	社会的、理科的なものの見方・考え方を活用して問題解決を行う。	Show&TellやICTなどを活用し、表現活動を充実させる。

表 2 - 1 「生活ひろば」の年間教育課程（5 歳児）

	春（4～6月）	夏（7～9月）	秋（10～12月）	冬（1～3月）		
栽培	野菜や草花の栽培、抽出、収穫、調理 ◇グループごとに育てたい野菜を相談し、苗植えや種まきをする。 - 畑を観察し、生長における変化に気付く。〈発見〉 - 野菜や花の生長に問題があるときには、原因や対策を考え、調べたり、予想を立てて試したり、結果を振り返ったりする。〈探究〉 - 必要な知識や道具があるときには、家庭でも調べたり、地域の専門家にお話を伺ったりする。〈交流〉		野菜の収穫、調理 ◇収穫した野菜の食べ方を考え、調理して味わう。 - 育てた野菜の食べ方を相談し、調理方法や必要な物を考えたり調べたりする。〈発見〉 - 調理中の変化や、味、におい、触感などに気付き、味わうことで収穫できた喜びを感じる。〈発見〉 - 実際に調理してみても、うまくいかなかったことや、さらにやってみたいことを試す。〈探究〉		「わくわくうどん」をつくって食べよう ◇幼稚園でつくった味噌と小学校でつくったうどんを持ち寄り、「わくわくうどん」をつくる。 - 持ち寄った味噌を使って、つゆを試作し、味を決める。〈探究〉 - 幼稚園の味噌からつくったつゆと小学校のうどんを合わせて、わくわくうどんを完成させる。できたうどんを味わい、気付いたことを出し合う。〈探究〉 - お世話になった地域の人などを招いて、会食する。〈交流〉	
	味噌づくり ◇昨年度育てた大豆を使用し、「わくわくうどん」づくりに向けて、味噌づくりをする。 - 味噌のつくり方を調べる。〈発見〉 - 家庭や地域の方につくり方を教えてもらう。〈交流〉 - 味噌づくりを通して、実際に味噌ができていく過程を知り、大豆からの変化を味わう。〈探究〉		染め物 ◇色合いや濃度を探索しながら、染め物を行う。 模様や色の表れ方を予想しながら、会食で使用するランチョンマットや生活に必要なものをつくる。〈探究〉		梅っこフェスティバル ◇仲間と相談しながら、遊びや取組に必要なものをつくる。 - 自分たちのやりたいことが実現できるように考える。〈探究〉 4歳児を招待し、お客さんが楽しめるように工夫する。〈交流〉	
制作	お店屋さん ◇子どもたちの日常的な興味から、品物を制作し、お店を展開する。 - 色や形、感触、機能など、そのものらしさを捉え、素材やつくり方を考えながら制作する。〈探究〉 - 実際のお店を見学し、陳列方法や開店に必要なものに気付く。〈交流〉 - お客さんを想定しながら、開店準備をする。〈探究〉 4歳児を迎え、お客さんの気持ちを理解して、品物の説明や販売を行う。〈交流〉		香り・色水遊び ◇草花や実などをすりつぶし、色の出方や香りの変化に気付き、遊びを展開する。 - 草花を採取し、色の抽出方法を模索し、色の混ざり合いや香りの変化に気付く。〈発見〉 - ジュース屋や染め物など、自分たちのやりたいことが表現できる方法を考え、くり返し試しながら、実現する。模様の描写や色の抽出について、試行錯誤しながら、イメージしたものに近づける。〈探究〉		子どもがつくるまち ◇個々の制作物を注視したり、まち全体を俯瞰したりしながら、興味のあるものの特徴を捉えたり、仕組みや機能に着目したりして、建物やまちに必要なものを制作する。 - 電車など、自分たちの興味のあるものを図鑑で調べ、気付きや知識を出しあいながら、制作を行う。〈発見〉 - 実際に実物を見たり、話を聞いたりできる場所に行き、見識を深める。〈交流〉 - 気付いた特徴を表すために素材や方法を工夫したり、仕組みや機能を理解し、再現できるように考えたりする。〈探究〉	
社会創造	白梅郵便局 ◇手紙やはがきなど郵便に必要な材料を制作し、自作のポストを介して園内で集配と販売を行う白梅郵便局を展開する。実際の郵便に触れたり、小学生と手紙の交流をしたりして、社会の仕組みについて理解する。 - ポストにはさまざまな形や色のポストがあり、集配の仕事があつて手紙が届くことに気付く。〈発見〉 - 伝えたいことや知りたいことを手紙に書き、友達や小学生とやりとりをする。〈交流〉 - 実際の郵便で必要なきまりに気づき、郵便の仕組みを理解し、よりよいかたちで再現できるようにする。〈探究〉					

表 2-2 「生活ひろば」の年間教育課程（1年生）

	学校だいすき 春	学校だいすき 夏	学校だいすき 秋	学校だいすき 冬
栽培	ガーデニング			
	「花のレストラン」ってなあに ◇花や野菜の栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉	「花のレストラン」ってなあに ◇花や野菜の栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉	「腐葉土」ってなあに ◇腐葉土づくりを通して、植物の特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉	「糧うどん」ってなあに ◇小平市のうどん文化を知り、小麦栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉
飼育	わくわく生き物博士			
	春の生き物を調べよう ◇春の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉	夏の生き物を調べよう ◇夏の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉	秋の生き物を調べよう ◇秋の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉	冬の生き物を調べよう ◇冬の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉
制作	花・遊・美			
	春の植物を調べよう ◇身近な春の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉	夏の植物を調べよう ◇身近な夏の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉	秋の植物を調べよう ◇身近な秋の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉	冬の植物を調べよう ◇身近な秋の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉
		おもちゃラボ		
		動くしくみを調べよう ◇自然や身近にある物を利用して、工夫してつくって遊ぶ学習活動。〈探究〉	音のしくみを調べよう ◇自然や身近にある物を利用して、工夫してつくって遊ぶ学習活動。〈探究〉	
創造	学校探検隊	一小郵便局	一小祭り	
	ヒミツを紹介しよう ◇2年生から学校の生活や出来事を聞き、2年生や友達と伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉	郵便局を紹介しよう ◇小平市の丸ポストを知り、2年生や友達と郵便遊びを行い、伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉	昔遊びを紹介しよう ◇2年生のお祭りに参加し、昔遊びを通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉	昔遊びを紹介しよう ◇幼稚園児を招いて、昔遊びを紹介する活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉

表 2-3 「生活ひろば」の年間教育課程（2年生）

	小平だいすき 春	小平だいすき 夏	小平だいすき 秋	小平だいすき 冬
栽培	ガーデニング			
	「バタフライガーデン」ってなあに ◇花や野菜の栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉	「糧うどん」ってなあに ◇小麦栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉	「腐葉土」ってなあに ◇腐葉土づくりを通して、植物の特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉	「バタフライガーデン」ってなあに ◇花や野菜の栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉
飼育	わくわく生き物博士			
	春の生き物を調べよう ◇春の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉	夏の生き物を調べよう ◇夏の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉	秋の生き物を調べよう ◇秋の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉	冬の生き物を調べよう ◇冬の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉
制作	花・遊・美			
	春の植物を調べよう ◇身近な春の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉	夏の植物を調べよう ◇身近な夏の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉	秋の植物を調べよう ◇身近な秋の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉	冬の植物を調べよう ◇身近な秋の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉
		おもちゃラボ		
		動くしくみを調べよう ◇自然や身近にある物を利用して、工夫してつくって遊ぶ学習活動。〈探究〉	音のしくみを調べよう ◇自然や身近にある物を利用して、工夫してつくって遊ぶ学習活動。〈探究〉	
創造	学校探検隊 ヒミツを紹介しよう ◇学校の生活や出来事を1年生や友達と伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉	一小郵便局 郵便局を紹介しよう ◇1年生や友達と郵便遊びを行い、伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉	一小祭り 昔遊びを紹介しよう ◇1年生をお祭りに招待し、昔遊びなどを通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉	一小郵便局 郵便局を紹介しよう ◇幼稚園児と郵便遊びを行い、伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉

(5) テーマ展開と時数配分

各テーマを展開させる時期と時数配分（小学校）は、表３－１～表３－３に示す通りである。教育課程では、テーマが学期を超えて長期に扱われること、学年間で関連性を持たせていること、そして、複数のテーマが並行して進行し、月や学期を超えて繰り返し経験すること、テーマ間の連携があり、分野を超えて一つの経験となること、を特徴としている。

表３－１ テーマ展開（５歳児）

※丸数字：実施月

	春			夏		秋			冬		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栽培	野菜・草花の栽培										
		⑤大豆種まき		⑦枝豆収穫				⑫大豆収穫			
	味噌造り・調理										
		⑤味噌仕込み			⑨味噌汁づくり					②たらしもち交流	
制作		⑥味噌汁の描画								③たらしもちうどんづくり	
	色水遊び										
	野菜や草花から色や香りを抽出する										
		⑤染め物 草木染めのこいのぼり	⑥香りづくり			⑩ランチョンマットづくり					
社会創造	制 作										
			⑥お店屋さん			⑪子どもが つくるまち				②一小祭り交流	
						⑪秋祭り交流				②梅っこ フェスティバル	
	白梅郵便局										
	手紙を通しての交流・郵便ごっこ										
		⑤手紙をかく	⑥はがきづくり			⑩年賀状づくり					

表３－２ テーマ展開と時数配分（１年生、170 時間）

期	学校だいすき 春			学校だいすき夏		学校だいすき 秋			学校だいすき 冬		
月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時間数	13	18	19	10	16	20	18	16	14	14	12
栽培	ガーデニング（花・麦・腐葉土）35 時間										
	2	4	2	2	4	4	2	4	5	2	4
飼育	生き物博士（春・夏・秋・冬）42 時間										
	4	6	2	4	4	4	2	4	4	4	4
制作	花・遊・美 29 時間										
	4	4	4	—	2	4	5	6	—	—	—
	おもちゃラボ 13 時間										
	—	—	7	—	—	6	—	—	—	—	—
創造	学校探検隊（春・夏・秋・冬）29 時間										
	3	4	4	4	2	2	2	2	—	2	4
					秋祭り 11 時間			一小祭り 11 時間			
	—	—	—	—	4	—	7	—	5	6	—

表 3-3 テーマ展開と時数配分（2年生、175 時間）

期	小平だいすき 春			小平だいすき夏		小平だいすき 秋			小平だいすき 冬		
月	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
時間数	18	18	19	10	16	20	18	16	14	14	12
栽培	ガーデニング（花・麦・腐葉土） 35 時間										
	2	4	2	2	4	4	2	4	5	2	4
飼育	生き物博士（春・夏・秋・冬） 42 時間										
	4	6	2	4	4	4	2	4	4	4	4
制作	花・遊・美 29 時間										
	4	4	4	—	2	4	5	6	—	—	—
	おもちゃラボ 14 時間										
	—	—	7	—	—	—	7	—	—	—	—
創造	学校探検隊（春・夏・秋・冬） 30 時間										
	8	4	2	2	2	2	2	2	—	2	4
	一小郵便局 14 時間								一小祭り 11 時間		
	—	—	2	2	4	6	—	—	5	6	—

次の活動例「小麦粉と味噌をもちよって、「わくわくうどん」をつくって食べよう」は、それぞれの学年の子どもなりの疑問に基づき活動を展開させ、お互いに教え合い学び合って、うどんの一品をつくりあげ交流するものである。すなわち、幼児は4歳児で枝豆を栽培し大豆を収穫し、5歳児で味噌をつくり、汁を調理し、1年生は麦をまき栽培し、2年生で収穫し粉を挽いてうどんをつくり、持ち寄って一つのごちそうとし、共食するものである。小平には伝統食として糧うどんがあり、土地柄、水田ではなく畑での作物栽培が中心であったことから、この一連の活動を考案している。

令和6年度は、うどんづくりの前段階として、小平のソウルフード「たらしもち」をつくって、5歳児と2年生が会食した。小麦の栽培と収穫を経験した2年生が小麦粉とふすまと水などで「もち」を焼き、大豆を栽培、収穫した5歳児が味噌をつくり、小学校に持ち込んで、甘い味噌だれをつくり、もちにかけて、共においしくいただいた。

本研究開発において「わくわくうどん」をつくって食べよう」という活動は象徴的な実践になると考えている。個の問いや課題を他者に拓き、他者との対話や協働から生まれるアイデアや課題を活動において再度試し、さらにその成果が協働にもち込まれる。この循環的な過程において、個の学びと対話的協働的な学びが融合され、その子なりの学びとなるだろう。

◇活動例「小麦粉と味噌をもちよって、「わくわくうどん」をつくって食べよう」

小学生は小麦を種から栽培、収穫し、製粉してうどんをつくる。4歳児で大豆を栽培、収穫し、5歳児で味噌や醤油をつくる。小学生はうどんを、5歳児はつゆをつくって持ち寄り、うどんを味わう。おいしいうどんになるのかどうか、わくわくしながら栽培や調理を行い、その成果を楽しむ。

* 1年生

- ・給食に小平糧うどんが出されたことをきっかけに、色や食感、味わい方などの特徴に疑問をもつ。小平糧うどんのひみつを保存普及会の人や地域のうどんづくり名人に教えてもらう。
- ・うどんが小麦粉からできていることを知る。自分たちでうどんをつくりたいと願い、そのために、秋に小麦の種をまき、栽培する。よく育つにはたい肥や腐葉土などが必要であることを知り、学校の落ち葉などを利用して自分たちで腐葉土をつくる。

* 2年生

- ・自分たちで栽培した小麦を1学期の中頃に収穫する。腐葉土は幼稚園児や他学年、地域の人にも配布して役立ててもらう。小麦粉への加工の仕方を教えてもらい、脱穀して石臼で製粉する。小平の昔の暮らしに触れる。
- ・おいしいうどんのつくり方を、うどんづくり名人に教えてもらう。1年生にも協力してもらい、うどんづくりに挑戦する。

* 5歳児

- ・食べ物のおいしさのひみつに関心を持ち、味噌や醤油などの調味料の役割を知る。味噌や醤油の原材料が大豆であることを知り、本当に味噌や醤油になるのか、大豆を育てて試してみることにする。大豆の種まきと栽培は4歳児との交流活動で行う。
- ・大豆の栽培の過程で、枝豆を収穫して食べ、枝豆と大豆の関係を知る。
- ・地域の味噌づくり名人に、味噌や醤油のつくり方を教わり、自分たちで仕込む。約半年後にできあがる。

* 交流

- ・小学生はうどんを、5歳児は味噌や醤油を持ち寄り、「わくわくうどん」を完成させる。お世話になった地域の人たちも交えて、おいしくいただく。

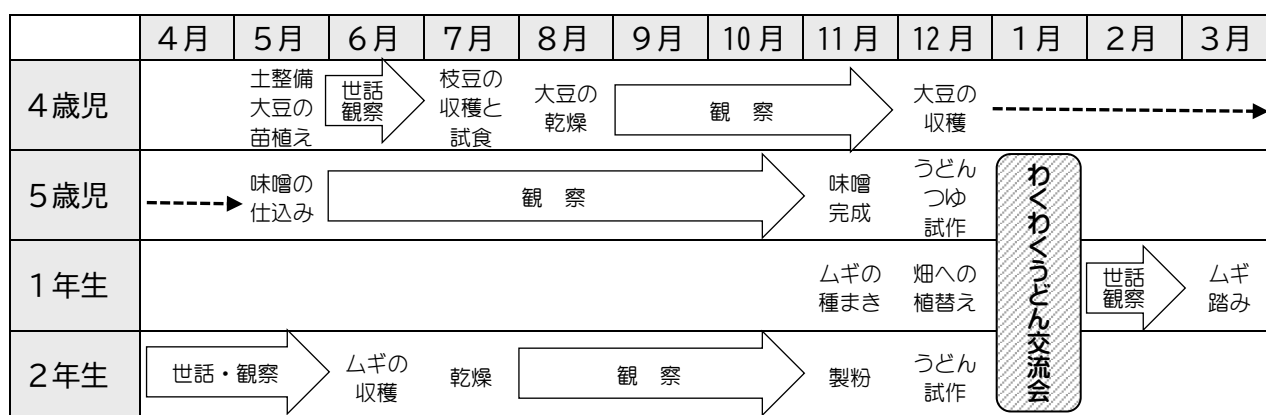


表4 本研究において活用する地域の環境や資源の例

地域の環境や資源	説 明
丸ポスト	小平市内に昔ながらの丸ポストが37本あり、都内の自治体で最も多い。
小川用水	小平には玉川上水や小川用水などの水路があり、市民に親しまれている。
小平糧うどん	地粉を用いた小平の代表的な郷土料理で、給食でも提供される。
ぶるべー	小平はブルーベリー栽培発祥の地で、ぶるべーは市のキャラクターである。
西武鉄道	小平には西武鉄道の4路線が走る。車両や特急などに子どもたちが親しむ。
市民まつりなど	小平にはおまつりが多い。近隣で開催され、市民が参加しやすい。

6 学習環境と評価の工夫

(1) 生活ひろばの教室——子ども一人一人の探究を促す学習環境づくり（小学校）

生活ひろばの学びを授業時間外でも自由に行える場を提供すること、子どもの探究心、創造性、表現力を育むこと、異学年交流や地域との交流の場とすることを目的に、「生活ひろばの教室」を設置した。幼稚園に似たような環境があり、環境や学びの連続性を保障し、子どもの主体的な学びを促進する場として計画された。（p. 24 参照）

生活ひろばの教室は「はてなコーナー（廊下）」「はてなコーナー（教室）」「わくわくほんだな」「お

宝コーナー」「季節のコーナー」の五つのコーナーから構成される。休み時間等の授業時間外も利用可能であり、廃材や材料を自由に使い、制作や遊びに取り組むことが可能である。授業時間内に終わらなかった探究を続けることも可能である。教師やボランティアスタッフがサポートを行う。

子どもは授業で学んだことを活かし制作や遊びに取り組んだり、友達と協力して作品を作り、遊び方を工夫したりしていた。また、異学年の子どもと交流し、教え合い、学び合う様子が見られた。

（２）創造性を促進するルーブリックの可能性（小学校）

ルーブリックは評価の透明性を高めるツールである。評価の視点を明示化することで、学習者が目標に向かって努力しやすい環境を提供できる。また、子ども自身がルーブリックを理解することにより、学びへの主体性が高められるだろう。

①局面の限定

ルーブリックは、小単元や特定の技能に焦点を当てると、目標を具体的に理解しやすくなる。

評価項目は、「可測性の確保」を行うことが重要で、「数値化できる」「行動として表せる」「主観的な要素を排除する」といった点に留意することが望ましい。

②子どもの目線で設計

ルーブリックが子どもにとって魅力的であるためには、以下の要素が必要である。

1. 分かりやすい言葉や絵で表現されている。
2. 子ども自身が項目に納得している。
3. 「自分にもできそうだ」と感じられる。
4. 驚きや楽しさを生む「WOW!」的なカテゴリーがある。
5. 空欄を設け、子どもと共に完成させる余地がある。
6. 自分で「A」を決めることができ、個々の学びに応じた柔軟性が確保されている。

③その子だけのルーブリック

記述式にすることで、同じ課題であっても、異なる目標や成功基準を設定することで、子ども自身が評価のプロセスに主体的に関与できる。例えば、1年生は学びの視点を中心に、2年生はより記述を多く「その子だけのルーブリック」にすることを心がけている。

（３）探究ドキュメンテーション（幼稚園）

本研究開発では、園児の探究の過程について、自由遊びにおける個別の遊びの様子と、同年齢での協働や異年齢での協働、クラスタイムへの参加など、一連の取組を記録し、子どもの「探究」という事象をくみとる「探究ドキュメンテーション」を作成している。（p. 23 参照）

探究ドキュメンテーションの作成は、子どもが対象とどのように向き合い、何を感じ、どのように考えたのかを可視化していく試みであり、子どもの探究や保育に関する評価を示すものである。

探究ドキュメンテーションは、それをもとに保育者間で保育の実際を振り返り、それまでの取組の事実や子どもの探究に関する評価を共有する。園内の保育カンファレンスにおいて、テーマや取組の変遷をどう捉えるか、問題解決はどのように連鎖しているか、学びの個性化がどのように表れているか、個別最適な学びと協働的な学びはどのように融合されているか、などを検討し、カリキュラム・マネジメントを行う。

7 令和6年度の実践から

(1) 対象物の変化に長期的に関わる

—— 育てたものを持ち寄って「たらしもち」をつかって食べよう

5歳児



大豆から味噌へ

5歳児 5月 各家庭の味噌を味わう



年長組に進級した5月、家庭で使っている味噌を持ち寄り、見比べてみました。比べることで、色、粒感、作られている場所の違いなどに気づいていました。また、赤みそのように色が濃いものや、白っぽい味噌があることも知ることができました。

- ・「〇〇ちゃんちは豆のつぶがあるね」・「こっちは白っぽい」
- ・「合わせみそっていうのもあるね」・「ツブツブがないのもある」
- ・「麦味噌っていうのもあるんだ」
- ・「うちの味噌は僕たちがつくった味噌だよ」
- ・「同じ味噌なのに、なんでこんなにいろんな種類があるのかな」
→「作り方が違うのかな」

5歳児 5月 味噌を仕込む

5歳児が、昨年収穫した大豆と地域のお豆腐屋さんで購入した大豆を使って、味噌を仕込みました。



地域の味噌づくり名人から味噌の仕込み方を習う



「味噌のにおいがする」

塩切り麹をつくる

「味噌になってる！」

「豆腐のにおいがする」「味噌のにおいがする」「味噌になっている」など、一つ一つの工程で気づいたことを呟く子どもたちの姿がありました。味噌づくり名人から「時間と麹が味噌をおいしくしてくれる」と教えてもらって、「味噌になるのが楽しみ」と話しながら仕込みが完了しました。



大豆と塩切り麹を混ぜる



味噌玉をつくる



容器に仕込む

5歳児 8月 味噌になる

8月末、観察用の味噌が色づいていることから、味噌の様子を見てみることにしました。

5月



8月



味噌が色づいた！



味噌にカビが生えていた

容器を開けてみると、カビが生えていました。それを見た子どもたちは「焦げているみたい」「うちのお風呂にもカビが生えているよ」「カビって水のあるところにできるよね」「これはもう食べられないかもしれない」と話していました。しかし、1学期に読んだ『みそちゃん』の絵本の内容を思い出したA児が、「カビをとれば食べられるって言っていたよ」と話し、カビをとることにしました。



カビを取り除く

9月末、「ね～、味噌ができているよ」とクラスみんなに知らせるB児がいました。「なんでそう思ったの？」と尋ねると、「だって、うちにある味噌と同じ色をしているから、もうできていると思う」と話していました。ついに手作り味噌の完成です。



味噌の完成

5歳児 10月 味噌を食べる

完成した味噌を使い、沸かしたお湯に味噌を入れるだけの素朴な味噌汁を味わいました。



味噌汁にして味わう



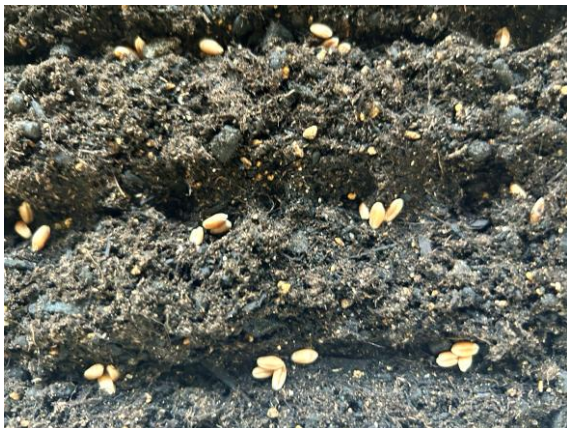
・「コクがあっておいしい」
・「少し、薄い」
・「おいしいから5杯おかわりした」



小麦から、たらしもちへ

栽培

1年生 10月 麦の種をまこう



「芽が出るかな？」

1年生 1月 麦踏み进行



「麦ちゃん、強くなってね！」

2年生 4月 麦を観察しよう



「麦の穂が出たよ！」



「黄色い卵がついてるよ！」

収 穫

2 年 生 6 月 麦を収穫しよう



「麦の穂が茶色くなったよ！」



「実が取れないように！」

2 年 生 11 月 麦を製粉しよう



「かたくて、つぶすのが大変だなあ！」



「がんばれ～！けっこう粉になったね」

交 流

2 年 生 11 月 「たらしもちづくり」



「うどん名人の小野さんに教わろう！」



「ふすまを入れるとおいしくなるよ！」

2年生 2月 「一小祭り」



「もう焼けたかな？」



「幼稚園のお味噌！おいしそう！」



「たらしもちに味噌だれをかけよう！」



「たらしもちおいしいね！」

5歳児 3月 たらしもちパーティー

幼稚園では5歳児が、小学校でたらしもちを食べた経験を踏まえて、自分たちでもたらしもちをつくり、「たらしもちパーティー」を開くことになりました。



自分たちで焼いてみる



おいしくできて大満足

(2) 再現を通して社会の仕組みに触れる ― 小平の丸ポストから

5 歳児



ポストを通して交流する

小学校からポストが やってくる

小学校から幼稚園に手作りのポストが届きました。早速子どもたちで飾りつけをしました。ポスト自体にも興味をもち、色々なポストを調べたり、実際に見に行ったりする子たちもいました。



届けられたポスト



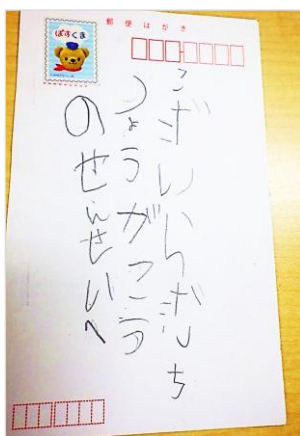
ポストに飾りつけ



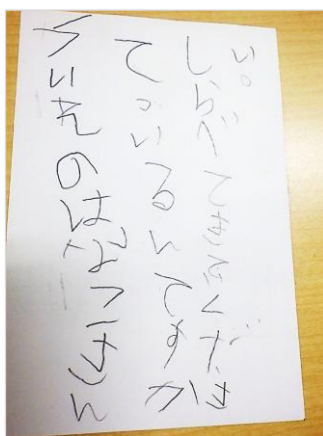
色々なポストに興味をもつ

小学生に手紙を書く

もうすぐ小学生になる5歳児は小学校に「トイレの花子さん」がいるのかどうか気になり、小学校に手紙を出して聞いてみることにしました。



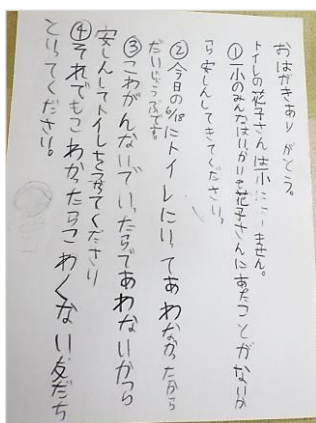
小学校への手紙



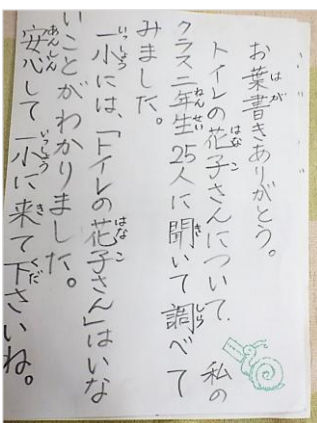
手作りポストに投函

小学生から返事が届く

「トイレの花子さん」について小学生から返事が届きました。小学生からの手紙を読んで、一安心した園児たちです。



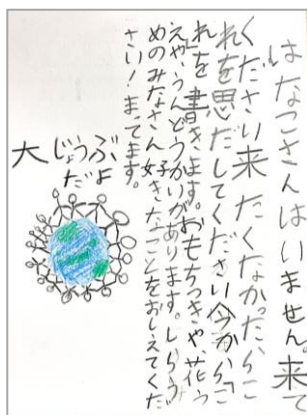
小学生からの返事



園児からの返事

小学生からの質問に
返事を書く

小学校から届いた手紙のなかに、「好きなことをおしえてください」という質問がありました。早速、返事を書くことにした5歳児は、「エルマーが好きです」「ぼくの好きなものは、アワビと奈良漬です」などの好きなものや絵をかいて、返事を出しました。



小学生からの手紙



園児からの返事



手紙を書く5歳児



郵便の仕組みを知る

2年生

「一小郵便局」丸ポストのまち小平



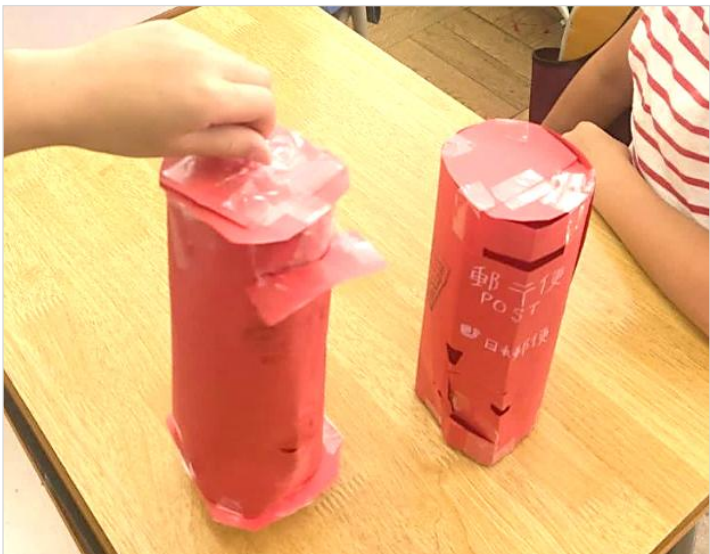
「先生より大きいんだ〜！」

丸ポストを調べよう

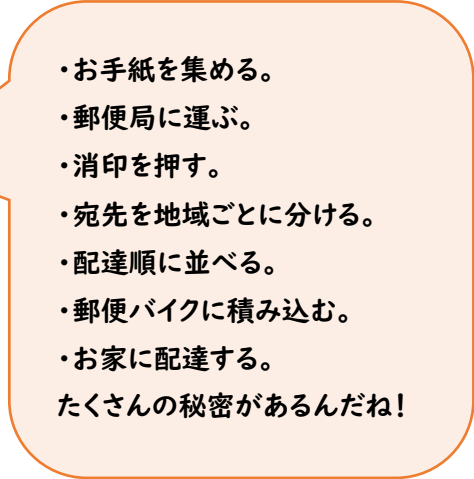
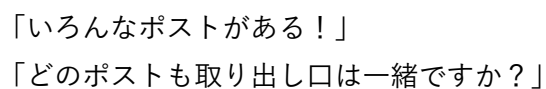
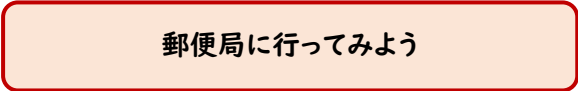


「長さはどのくらいかな？」

1 枚の紙から丸ポストを作ってみよう



「〇〇君のは、ひさしがあるね？」



〇〇をつくろう(ポスト・切手・消印・手紙など)



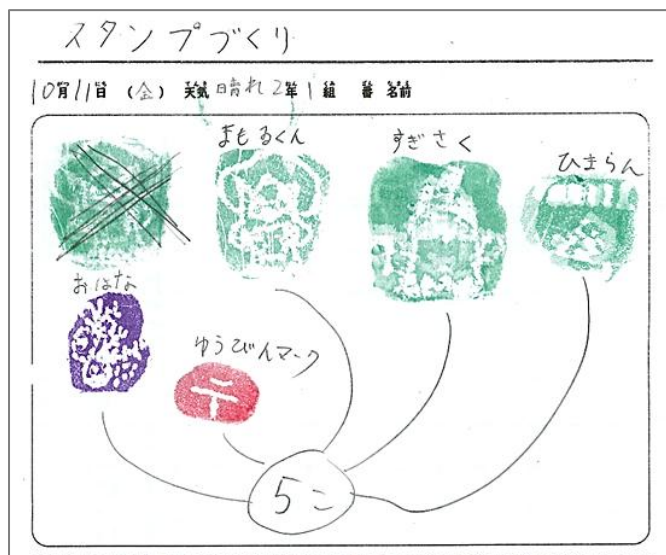
「実物大にしたいなあ」



「取り出し口も工夫しよう!」



「つまようじでさすのは楽しいね」



「消印、こんなにつくったよ」



「どんなデザインにしようかな」



「切手作りも楽しいね!」

郵便遊びをしよう



「どの切手を買おうかな？」



「投函！ ちゃんと届くかな？」



「消印は、切手の上に・・・」



「そろそろ収集時間だぞ！」



「郵便です。先生いないからポストに！」



「ルーブリック、全部ビンゴになったよ！」

幼稚園 5歳児事例「棒取り勝負」

《取組の概要》

プレイデーの年長独自種目として、「棒とり勝負」を保育者から提案した。

ルール…各クラスの生活グループで4本ずつ「棒」を作り、グラウンドの中心に並べる。各クラス向かい合い、合図で棒を取りに行き、自分のクラスの陣地に入れる。陣地に入れた棒について、「①総数 ②総重量 ③全てを繋げた長さ」の3部門で勝負する。棒の長さはラップの芯の長さ以上とし、一度に持ち運べる棒の数は一本までとする。

棒の作り方はクラスごとに特徴が見られ、たか1組は長さを重視したもの、たか2組は重さを重視したものが多く作られた。紙管や空き箱をベースに水や砂、石、湿らせた砂、ペットボトルに入れた水など、棒がより重くなるような素材を見つけ、仲間とアイデアを出し合いながら作っていく姿が見られた。棒の重さについてはあらかじめ子どもと一緒に秤を使って重さを調べ、棒に記した。各クラスで棒の準備が出来上がった頃、園庭にて初めての対戦を行った。

EP1 棒の選び方が変わる	9月	生活発見・生活交流
競技を始めて間もない頃は、目についた棒に向かって一直線に走り、自分のクラスの陣地に運ぶとまた次の棒へとすぐに手を出していく姿が多く見られた。何回か勝負をしていくうちに、「長さ」勝負の前にはクラスの仲間と「あの棒を最初に一緒に運ぼう」と話し合うなど、特定の棒を狙っていく姿になってきた。他と比べて特に長い棒、重い棒は子どもが数人集まっただけの引っ張り合いに発展することも増え、その時々勝負内容に応じた棒をなんとしてでも取りたいという気持ちを感じられた。 また、「長さ」と「重さ」の勝負では全ての棒が各クラスの陣地に運ばれるまでの時間が勝負の回数を重ねるごとに伸びていった。棒が並ぶ場所に来ると、棒を手にするまでに少し悩むような姿が見られたことから、どの棒を選べば勝てるかを考えていたのだろうと思われる。		
EP2 平等性を考える	9月	生活発見・生活交流
たか2組に総数の勝負で負けてから、次の勝負に移る際に、たか1組のS児とF児が2人で怪訝そうな顔をしながら話し合っていた。保育者が「何かあった？」と尋ねると、「あの棒が、たか2の方に近いんだよね」「すぐ取られちゃうからずるい」とのことだった。確かに、1つの棒が中心線からやや外れて、たか2組の近くに置かれていた。 2人の意見をその場で2クラスに共有し、勝負が始まる前の棒の置き方をどうすれば良いか投げかけると「真ん中に揃える」との声が出てきた。それまで保育者たちがおおよそ中心に集まるように棒を並べていたが、以降子どもたち自身が1本ずつ棒の中心をグラウンドの中心線に合わせることとなった。 勝負に負けると、何か有利な点が相手にあるのではないかと考えるようで、「中心線までの距離がたか2組の方が近いのではないか」といった意見も出てきていた。		
EP3 より長くなる方法を考える	9月	生活発見・生活交流
長さ勝負では、規定の線を出発点に各クラスが取った棒を子どもたち自身で全て繋げていく。競技を始めた当初は棒を並べることで自体に意識が向いていたが、回数を重ねるにつれ相手のクラスの棒がどこまで伸びてくるのか自分のクラスと比較しながら勝負の行方を楽しむ余裕が出てきた。 真っ直ぐに棒を繋げていくたか2組と比べ、たか1組は一人ひとりが好きなように棒を繋げていくことでぐにゃぐにゃと全体が曲がっていた。たか1組が勝負に負けた際、保育者が「たか2組は真っ直ぐ繋げているね」と話したこともあり、A児が「真っ直ぐ並べないと負けるぞー！」とクラスに呼びかける中、棒が真っ直ぐに繋がるよう地道に並べ直したり子ども同士で「そこが曲がっているよ」と声をかけ合ったりする姿が見られていった。		

《保育者の考察》

子どもたちの姿の変化から、勝負を重ねるごとに競技内容についての理解が深まっていったことを感じる。そうした一人ひとりの変化が、同じ目的に向かって仲間と力を合わせていくことにも繋がっていったと考えられる。ただ、EP3では全体を俯瞰して見る必要があり子どもにより理解度にかなり差があっただろう。重さ勝負ではあらかじめ棒に記した重さを保育者が電卓で足していく必要があり子ども自身の実感が伴いにくく、そもそも5歳児にとって「重さの総量」という感覚は高度だったことが考えられる。棒の長さが2メートルを超えるものがあり、安全面の観点から自由遊びの時間に子どもが自ら道具を取り出して遊べる環境をつくることができなかったことも反省として挙げられる。

「生活ひろば」の教室は、作品展示や装飾だけではなく児童の興味を引き出すきっかけとなる。自分の思いを表現したり、物の働きや仕組みを追究したりできるように環境を設定している。

①はてなコーナー（廊下）



児童の「〇〇ってなんだろう」を引き出し、自分で調べたり学んだりすることができるように、イラスト、写真、QRコード、触れる自然物記録カードを掲示している。

②わくわくほんだな

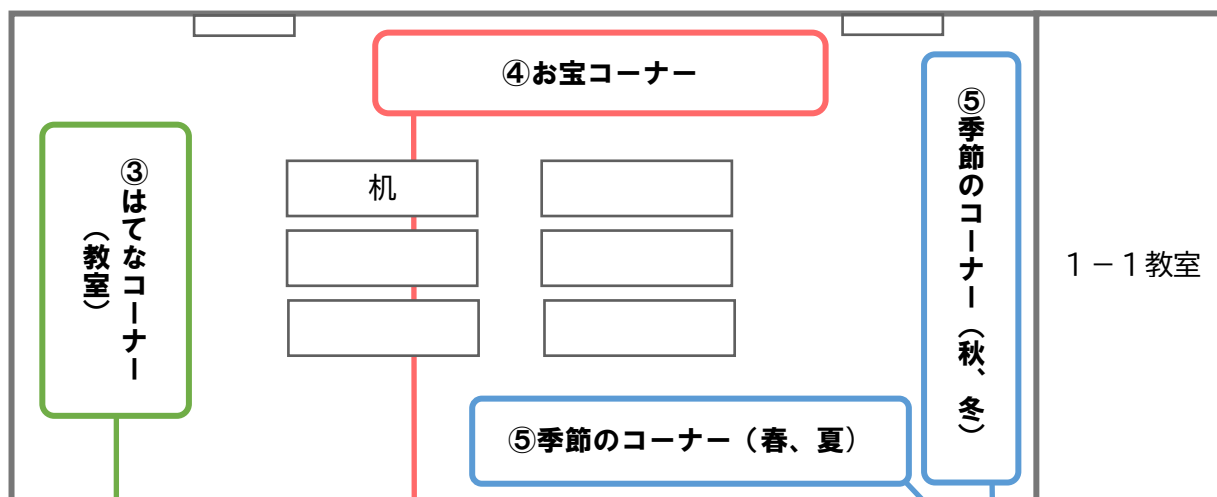


季節やその時の学習に合った本、図鑑を常設して、自由に見られるようにした。

廊下

①はてなコーナー（廊下）

②わくわくほんだな



③はてなコーナー（教室）



小麦の種、苗などを顕微鏡で観察できる場所を設けている。
自然の不思議さに触れ「もっと〇〇したい」と探究する姿勢を育てる効果があった。

④お宝コーナー（工作道具、廃材など）



それぞれで遊ぶだけでなく、それらを自由に組み合わせて遊ぶことで、新しい発見を促している。

日々の授業・休み時間・遊びの時間を過ごす学校活動の場で、児童の興味・関心に応じた環境作りを、幼稚園の様式から取り入れた。

⑤季節のコーナー



児童の「季節ってなんだろう」を引き出すため、イラスト、写真、季節に関する教科書の資料やQRコードを掲示している。自分から、タブレットで調べたり、学んだりするようになる効果があった。